

## とよかわ ホッと見守りファイル



## 地域の課題と解決策

### 3 在宅医療従事者の不足

現在、在宅医療を行う医療従事者は、実質的には限られている。（まだまだ少ない。）

このような状況下において、在宅医療従事者に関する負担軽減策が確立されなければ、これから在宅医療に取り組もうとする者の増加が見込みにくい。

I C Tの活用や相互支援体制の構築により、負担軽減を進める必要がある。

指定事業分類

【在宅医療従事者の負担軽減の支援】

# 活動ロードマップ（全体）

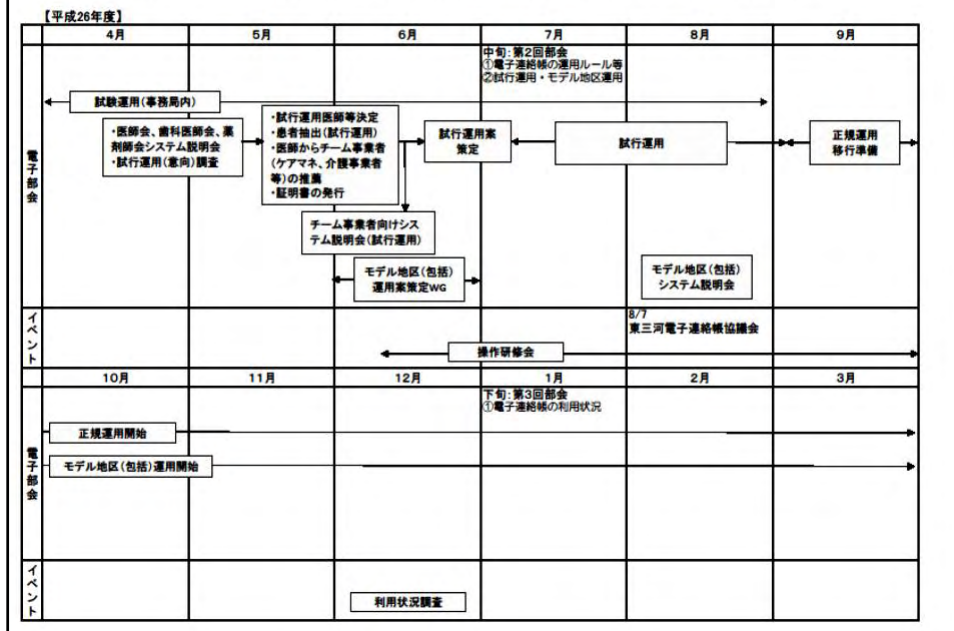
事業項目	平成25年度		平成26年度			
	第4四半期 1月～3月	第1四半期 4月～6月	第2四半期 7月～9月	第3四半期 10月～12月	第4四半期 1月～3月	
の多 抽 出 と 連 携 機 構 の 実 施 の 題	協議会の開催(年2回)	○		○		○
	協議会「研修・広報検討部会」の開催(年2回)	○	○		○	
	協議会「電子連絡帳導入検討部会」の開催(年2回)		○	○		○
	協議会「在宅医療支援体制検討部会」の開催(年2回)	○	○		○	
負 担 増 大 の 支 援	地域資源マップ作成		リスト作成	マッピング	資源マップ作成	完成
	アンケート調査			項目検討	アンケート実施	アンケート集約
	主治医・副主治医制の導入				グループング検討・調査	グループング実定
医 効 率 提 高 の 支 援	多職種協働人材育成研修の実施(年1回)		○	研修案作成	研修準備	○
	在宅医療・介護ネットワーク講演会・交流会の実施(年1回)		○			講演会・交流会準備
	アウトリーチの実施			可能性検討		調査実施・準備
び 入 に 関 連 の 支 援	空病床補足				空病床補足手法検討	補足手法実定
	レスパイトサービス等の実施			コアスタッフを中心に調査、可能性検討		調査実施・実施
地 域 に 関 連 の 支 援	シンポジウム等の開催			シンポジウム作成	シンポジウム準備	○
	生涯学習出前講座による普及啓発(随時)			4人1組/1回/1組		○
	チラシ、パンフレット、クリアファイル等での周知	クリアファイル・チラシ作成配布			パンフレット作成・配布	センター・携り作成・配布
	市広報、HP、FB等での周知		HP掲載		広報・パンフレット配布	広報1/1特集作成
マスメディアの活用(随時)						

※ 協議会・・・在宅医療連携拠点推進協議会の略 ※ 3つの検討部会で各事業内容を検討。(色分け)  
※ 必要に応じて、別途ワーキング及びミーリングリストによる情報交換を頻回に実施。

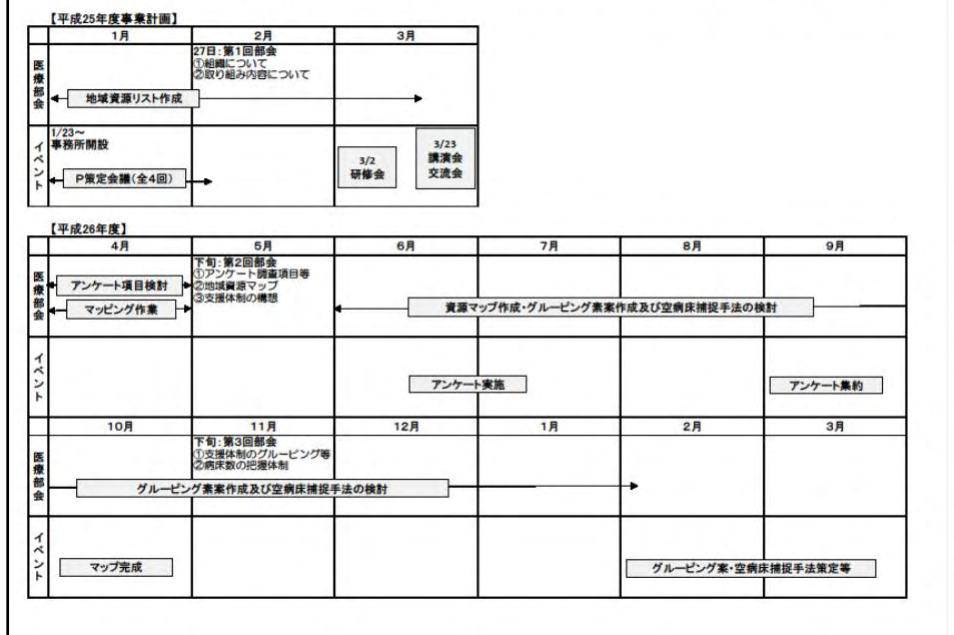
# 活動ロードマップ（研修・広報検討部会）

【平成25年度事業計画】						
	1月	2月	3月			
研修部会	クリアファイル チラシ案作成	21日:第1回部会 ①講演会事業検討 ②在宅医療広報検討	クリアファイル チラシ作成配布			
イベント	1/23～ 事務所開設 P策定会議(全4回)	2/13 介護保険事業者連絡 協議会講演会 (三浦氏)	3/2 研修会 3/23 講演会 交流会			
【平成26年度】						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
研修部会			下旬:第2回部会 ①連携研修会(H26.9) ②シンポジウム(H26.10) ③在宅医療推進/パンフレット	連携研修会準備		
イベント				シンポジウム準備		
				パンフレット案作成		
研修部会						連携研修会
研修部会	中旬:第3回部会 ①講演会・交流会 (H27.2) ②在宅医療推進/パンフレット					
イベント	シンポジウム	パンフレット作成・配布				
						講演会・交流会

## 活動ロードマップ（電子連絡帳端末導入検討部会）



## 活動ロードマップ（在宅医療支援体制検討部会）





## 平成25年度の活動評価

### 1 多職種連携の課題の抽出と解決策の検討

多職種連携の課題の抽出と解決策の検討を進めるため、平成25年度中に「在宅医療連携拠点推進協議会」を立ち上げた。

協議会は、下部組織である3つの検討部会も含めて総勢58人の多職種で構成されており、委員全員に各会議資料の事前送付や情報共有をしっかりと行ったことで、課題や問題意識の共有はされつつある。

また、交流会の開催などにより、顔の見える関係づくりが進みつつある。

検討部会では、自主的にワーキングを開催しようという機運も生まれ、平成26年度は不定期のワーキングも実施予定。

医師会等、各団体との協力体制がしっかりできていたことが目標達成の要因だと考えられる。

## 平成25年度の活動評価

### 2 在宅医療従事者の負担軽減の支援

平成25年度の活動としては、当初の予定どおり資源リストを作成し、平成26年度からの円滑な事業実施のための準備を行った。

現在、マッピングを進めているところであり、資源マップの完成により、不足資源、地域などが明らかとなることで、補強のための取組を検討していくこととなる。

この項目では、アンケート調査や在宅医療従事者の支援体制に関する検討など、医師会を始め各団体に協力を仰ぐところが大きいため、既に構築されている協力体制を活かして、目標達成に向け事業実施していきたい。

## 平成25年度の活動評価

### 3 効率的で質の高い医療提供のための多職種連携

「多職種協働人材育成研修」、「在宅医療・介護ネットワーク講演会・交流会」を実施することができ、そのアンケート結果などから、**研修満足度は高く、ニーズもあることが分かったため、平成25年度の活動としては、満足のいくところまで進めることができた**と考える。

今後は、引き続き多職種が集まることのできる機会を創出するとともに、**新たな教育ニーズの把握、より専門性の高いプログラムの検討**も行っていく。

情報共有ツールとしての電子連絡帳導入については、平成26年度上半期を試験運用、下半期より正規運用していく予定だが、**システムを使っただけなことには先に進めないため、医師会等、各団体としっかりと連携し、目標達成に向け事業実施していきたい。**

## 平成25年度の活動評価

### 4 入院病床の確保及び家族の負担軽減

平成25年度の活動としては、**平成26年度からの円滑な事業実施のため、在宅医療支援体制検討部会にて情報共有、意見交換等を行った。**

平成26年度より、空病床の補足手法検討、レスパイトサービス等の可能性検討を行っていく。

可能性検討にあたっては、**短期入所施設を中心に訪問型での調査**をするなど、事務局としても関係多職種との顔の見える関係づくりに配慮しながら、**医師会等、各団体としっかりと連携し、目標達成に向け事業実施していきたい。**